

# 外国語活動，外国語（英語）

## 1 これからの外国語活動・外国語（英語）科教育について

- 外国語活動により，外国語を通じて，言語や文化について体験的に理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら，コミュニケーション能力の素地を養い，中学校との円滑な接続を図る。
- 「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識等について，自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し，「話すこと」や「書くこと」を通じて発信することが可能となるよう，中学校・高等学校を通じて，4技能を総合的に育成する指導を充実する。
- 「聞くこと」，「話すこと」，「読むこと」及び「書くこと」の4技能の総合的な指導を通して，これらの4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成するとともに，その基礎となる文法をコミュニケーションを支えるものとしてとらえ，文法指導を言語活動と一体的に行うよう改善を図る。
- 中学校における「聞くこと」，「話すこと」という音声面での指導については，小学校段階での外国語活動を通じて，音声面を中心としたコミュニケーションに対する積極的な態度等の一定の素地が育成されることを踏まえ，指導内容の改善を図る。

## 2 各学校において取組が求められること

### 小学校

- 校内研修の実施と教員の指導力向上
- 校内の学習環境の整備
- 保護者，地域に対する外国語活動の趣旨の周知徹底
- 中学校区内での小小・小中連携の推進

### 中学校

- 改訂の趣旨や具体的な変更点についての理解
- 改訂の趣旨を踏まえた授業の工夫改善及び年間指導計画の見直し
  - ・ 4技能の総合的な育成
  - ・ 小学校における外国語活動との接続
  - ・ 知識・技能の活用を図る言語活動の充実
  - ・ 語彙の充実
- 小学校における取組状況の把握（小中連携）

### 高等学校

- 各科目の目標や生徒の実態などを踏まえた上で，身に付けさせたい力を明確にした指導計画と評価計画を作成
- 新学習指導要領の円滑な実施に向けた指導體制の構築
  - ・ 生徒のコミュニケーション能力の向上に資する言語活動の開発
  - ・ 文法を，言語活動と効果的に関連付けて指導する方法の工夫
  - ・ 「授業は英語で行うことを基本とする」ために必要な準備

## 3 外国語活動，外国語（英語）科における言語活動の充実

- ・ 外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図る態度をはぐくむとともに我が国と外国の言語や文化について体験的に理解を深める活動を充実する。
- ・ 「聞くこと」，「話すこと」，「読むこと」及び「書くこと」の4技能の総合的な指導を通して，これらの4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成するとともに，その基礎となる文法をコミュニケーションを支えるものとしてとらえ，文法指導を言語活動と一体的に行うよう改善を図る。
- ・ コミュニケーションを内容的に充実したものとすることができるよう，指導すべき語数を充実する。

# 小学校 外国語活動 の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

- 自分の行きたい国について、内容や順序を考えて、紹介することができる。

思考力、表現力の育成

- 科目 外国語活動
- 学年 第6学年
- 単元名 行ってみたい国を紹介しよう
  - 本時の目標 自分や相手の行きたい国について進んで交流する。
- 学習の流れ (3・4時間目/全4時間)

	学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 (評価方法)
第3時	○ クイズカードを作る。 ①自分の行きたい国を決める。 ②その国に行きたい理由と国旗について書く。 ③ヒントに使うものを4つ選び、どの順番にヒントを出すか考える。	第4時の「3 行きたい国を発表する活動」に向けて、第3時の中に、クイズカードを作る時間を設定しました。 ・第1時・第2時で学習したモデル文や内容を参考にしながら考えさせる。 ・ワークシートを用いて、相手にだんだんとわかるヒントの順番を考えさせる。	
第4時	1 目標を知る。 2 復習をする。 ○歌やチャンツなどで復習する。 3 行きたい国を交流する活動をする。 ①2人組になる。 ②自分が行きたい国について4つのヒントを順番に紹介していく。 ③相手が答える。 ④交代する。 4 本時の活動を振り返る。 ○本時のめあてができたかどうか振り返る。 ○友だちの良かったことについて発表する。	・本時の目標と活動内容を知らせる。 ①自分の行きたい国とその国で何がしたいのかを積極的に紹介し、友達の行きたい国をあてよう。 ・第1時～第3時で使った歌やチャンツを用いて、活動3で児童に使わせたい表現に慣れさせる。 ・やりとりの仕方に困った児童に対応できるようヘルプコーナーを設ける。	・自分の行きたい国を積極的に紹介しようとしている。〔コミュニケーションへの関心・意欲・態度〕(行動観察、振り返りカードの記述) ・相手の話す内容を積極的に理解しようとしている。〔コミュニケーションへの関心・意欲・態度〕(行動観察、振り返りカードの記述)

## 指導のポイント

### 考え・情報を選択・整理するためにワークシートを活用させる

- コミュニケーションを図る楽しさを体験させるために、相手に興味・関心をもたせ、相手がだんだんとわかるヒントの出し方についてワークシートを活用して考えさせています。最初に、本単元の第1時・第2時で慣れ親しませてきた表現「～したい」と国旗の説明の仕方を参考にして、どこの国に行きたいかとその国でやりたいことと国旗についての情報を書かせます。次に、それらの中から、**4つのヒントを選択し、どういう順番で言えば、相手がだんだんと分かるようになるかを考えさせます。**

1 行きたい国は(イタリア)です。

#### その国でやってみたいこと

- ・「トレビの泉」を見たい
- ・サッカーを見たい
- ・「真実の口」を見たい
- ・ピザを食べたい
- ・スパゲッティを食べたい

#### 国旗について

- ・旗の色は緑と赤と白
- ・形は3つの四角形



2 表に4つヒントを書きます。ヒントはどの順番に出すかよく考えてください。

第1ヒント	国旗の色(緑と赤と白)
第2ヒント	「真実の口」を見たい
第3ヒント	ピザを食べたい
第4ヒント	「トレビの泉」を見たい

どうすると、友達は楽しく考えてくれるかな？  
だんだんと分かるようなヒントの順番にしよう。

児童のワークシートより

### 聞いてみたい、話してみたいという思いをもたせるために、聞く・話す必然性のある場面を設定する

- 各単元に設定されている表現等を使用させる場合には、**聞く・話す必然性がある場面設定をすること**が大切です。本時では、クイズ形式を用い、聞く・話す必然性がある場面を設定することによって、**児童が外国語でコミュニケーションを図る楽しみを感じながら、さらに聞いてみたい、話してみたいという思いをもつようになります。**

新学習指導要領では

### 外国語を聞いたり話したりする活動で、積極的にコミュニケーションを図る態度を育むことを重視

- 今回の改訂で、新設された外国語活動では、外国語を聞いたり話したりする言語活動を通して、**外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験し、積極的にコミュニケーションを図る態度を育むこと**を目指しています。
- 第4時の学習活動3の「行きたい国を発表する活動」では、**自分の説明が徐々に相手に伝わる楽しさを感じ、相手の行きたい国をヒントを参考にしながら言いあてる楽しさ**も感じます。このことが、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することへとつながります。

# 中学校外国語科の事例

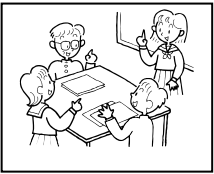

設定した言語活動を通して育てたい力

- 書き手の意見に対して賛否とその理由を示すことができるよう、書き手の考え方をとらえながら読むことができる。

思考力の育成

- 学年 第3学年
- 単元名 Unit 5 Cell Phone - For or Against
- 本時の目標 意見文を読んで内容を把握し、それに対する自分の意見を話すことができる。
- 学習の流れ (10・11時間目/全11時間)

《前時までの学習内容》中学生が携帯電話をもつことについての意見を読み取る

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 あいさつをする。 2 めあてを確認する。	・本時では、意見文の内容を理解するだけでなく、後で意見文に対する自分の意見を発表できるように読むことが目標であることを明確に示す。	
3 意見文「住むなら田舎か都会か」を読んで、内容を理解する。 	・読むときの視点を与える。 ポイント1 相手の意見(最も伝えたいこと)を読み取る。 ポイント2 その理由(根拠)を読み取る。 ・表やマッピングを使って、相手の意見と理由をメモさせる。 ・メモは英語で、キーワードで書くように指示する。 ・自分は賛成か反対かを明確にさせる。 ・表やマッピングを使って、考えを広げさせる。 ・理由を選び、順序を考え、番号を付けさせる。	・書き手の意見を批判的に読むことができる。〔外国語理解の能力〕(ワークシート) 
4 自分の意見(賛成・反対)とその理由を考える。		
5 ペアで意見を交換する。 (1) 意見の交換 (2) アドバイス (3) 意見の修正 6 考えを全体で発表する。	・自分の意見を明確に述べ、そのあと理由(根拠)を述べさせる。 ・複数の理由(根拠)を述べる場合には、順序を考えて筋道を立てて話させる。 ・アドバイスを活かして、意見を修正させる。 ・聞き手に正しく伝えるための視点を押さえる。 ・発表者の意見がわかりやすいかどうか、論理的であるかどうか、アドバイスを述べ合わせる。 ・聞き手としての視点も示す。	・自分の意見を理由を付けて論理的に話すことができる。〔外国語表現の能力〕(活動の観察、ワークシート、振り返りカードの記述)
7 自分の意見を書く。 8 本時の振り返りをする。	・読み手を意識した書くことの視点を押さえる。 ・めあてについて、振り返りをする。	

言語活動の充実

## 指導のポイント

### 読んだ後に自分の意見を表現することを意識させて、意見文を読ませる

- 意見文を読むときに、後でこの意見文に対する自分の意見を表現することを意識させて読ませましょう。このことによって、読み手として主体的に考えながら内容を理解することができるようになります。

内容理解を目的に読ませる

工夫

意見文に対する自分の意見を表現することを意識させて読ませる

### 「読むときの視点」や「メモの取り方」を明示し、内容を把握させる

- 「読むときの視点」や「メモの取り方」等を明示し、書き手の意見とその理由が明確になるような読ませ方をさせましょう。書き手が伝えたいことを論理的に理解することができるようになります。

#### 読むときの視点

- 1 相手の意見(最も伝えたいこと)
- 2 その理由(根拠)

#### メモの取り方

- 1 キーワードを英語でメモする。
- 2 表やマッピング等を活用する。

### 自分の意見を整理させるために表やマッピングを活用させる

- 書き手の意見を整理するのに活用したものと同じ表やマッピング等を活用することによって、相手の意見とその理由と比較対照しながら、自分の意見とその理由を明確にさせましょう。そうすることによって、学習場面5, 6において、自分の意見を明確に表現できるようになります。

相手の意見	理由
countryside	1 mountains
	2 clean air
	3 kind people
自分の意見	理由
city	1 easy to move
	2 many places to play
	3 many hospitals

### 新学習指導要領では

#### 書き手の意見などに対して、賛否やその理由を示すなどすることができるよう、考え方をとらえながら読む言語活動を重視

- 今回の改訂では、読むことの指導において、話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方をとらえながら読む言語活動が新たに示されました。これは、「読むこと」の活動であっても、単に知識等を得ることにとどまるのではなく、「読むこと」を通して得た知識等について、自らの体験や考えなどに照らして「話すこと」や「書くこと」と結びつけることが大切であることを示しています。
- 本事例では、「書き手の意見とその理由をとらえながら読む言語活動」を位置付けています。話す活動と結びつけた読む活動を設定し、その読む活動において、書き手の意見を整理するために表やマッピングなどを活用させることによって、書き手の意見を適切に理解することができるようになります。




設定した言語活動を通して育てたい力

- 学んだ表現を用いて内容を要約したり、根拠を明らかにしながら自分の意見を整理して述べるができる。

思考力、表現力の育成

- 科目 コミュニケーション英語Ⅱ
- 学年 第2学年
- 単元名 Why Don't We Ride Bikes?
- 本時の目標 自転車の歴史と自転車が私たちの生活にもたらした変化を理解するとともに、自転車の持つ可能性について考えることができる。
- 学習の流れ (2時間目/全7時間)

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 (評価方法)
<b>1 ミニスピーチ</b> ○ 「10キロ離れた友達の家にどうやって行くか」について、理由とともにグループ内で発表する。	・自分の意見を整理して、具体的な例を加えた理由を提示しながら、相手に分かりやすく伝える工夫をするよう、事前に指示しておく。 ・主題文→支持文の順序による英語を意識させる。	
<b>2 自転車の変化と、それによる生活の変化について内容をまとめる。</b> ○ 時系列に沿ってどのような自転車が作られたか、またそれぞれの問題点、改良点をワークシートの表に整理する。 ○ 当時の人々の生活の変化を True or False Questions を用いて理解する。	・スクリーンに、最初に開発された自転車から現在の自転車までを順を追って映し、年表に記入させることによって、視覚にも訴え、理解を促進させる。 ・数名の生徒に、内容を板書・発表させる。 ・内容についてクラス全体で協議しながら確認していく。	情報を整理しながら、内容を理解し、学んだ内容を生かして、自分の意見を表現することができる。 [外国語理解の能力・外国語表現の能力] (ワークシートの記述・発言観察)
<b>3 現在の生活における自転車の利点について自分の意見をまとめ、相手に伝える。</b>	・それぞれの答えについて、文中から根拠を見つけ出すと共に、False の場合は、正しい内容に英文を書き換えさせる。 ・本時で学んだ表現を使って、自転車の効果について論理的に相手に伝える。 ・聞き手は、その内容について批判的な立場で意見を述べさせる。(ミニディベート)	YES NO
<b>4 本時のまとめと次時の予告</b>	・自転車の歴史・影響について短文で要約を書くように指示する。 ・自転車使用を促進する1分間プレゼンテーションを各自準備しておくよう指示する。	

言語活動の充実

## 指導のポイント

ワークシートは授業の羅針盤 - 考えを整理し正しく理解できるような構成にする -

例1

Lesson 2 Why Don't We Ride Bikes?  
Class No. Name

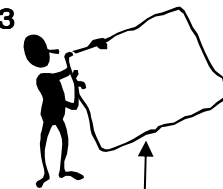
Read the text and complete the chart

Period	Kind of bikes	What's new	Problems



生徒が思考を整理し、適切に情報の取捨選択ができるように導きましょう。

例3



生徒が意見を述べる時にワークシートを使って発表できるよう構成を工夫することもできます。

ワークシートが指導案の働きをします。



例2

Worksheet

- Warm-up
- Guessing
- Mind map
- Outlining
- Vocabulary
- Listen and Summarize
- Reading Comprehension
- vocabulary building
- Further questions
- Reading Practice
- Further writing
- Research, Your opinions

生徒同士の意見交換の場を作り出す - 教師は巧みな facilitator -

- 生徒が発問に答えられない場合または生徒が自分の意見に自信がない場合

教師は視点を変えて発問し、生徒に諦めさせないでチャンスを与えることです。生徒の発言を活かしながら(たとえ正解でなくても)内容を展開していき、他の生徒にも考えさせることが大切です。生徒は正解からのみ学ぶのではなく、正解を導き出す過程の中で思考を深め学んでいくからです。

また、日本語の意味に頼らず、自分が使える英語で表現するよう励ましましょう。

その際絶対に必要なものは、間違いを恐れずに発表できるクラスの雰囲気づくりです。



新学習指導要領では

情報や考えなどを的確に理解し、適切に伝えることを重視

- 今回の改訂で、聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて話し合ったり意見の交換をしたりすることを目指す内容が盛り込まれています。情報に対して、的確に判断して必要な情報を選び出し、それをもとに自分の意見を述べる力が求められます。その際に、**必要な語彙や表現を、単に知識として蓄えるのではなく、実際に運用できることが必要です。**
- そのためにも、日頃から双方向に意見を伝え合う活動が必要になってきます。肯定・否定と立場を設定した意見発表をおこなったり、筆者の心情を代弁、或いは自分ならどうしただろうかという場面設定を行うなどして、**表現の場を多く設けることで、伝える能力の伸長に繋がります。**